肥料＆農薬技術情報

令和８年 11 月９日発行
11 月号
JA 全農えひめ
生産資材部
肥料農薬課

1. 今月の農作業（麦・大豆・たまねぎ・果樹の土づくり）
2. 2026 年 柑橘定点の土壌分析結果
3. 病害虫管理
4. 貯蔵病害対策（かんきつ）
5. その他

１.今月の農作業

11 月７日～12 月６日までの天候見通し

四国地方	平均気温（１か月）	降水量（１か月）	日照時間（１か月）
各階級の確率	低:10% 並:40% 高:50%	少:20% 並:40% 多:40%	少:40% 並:40% 多:20%
平年比	高い見込み	平年並みか多い見込み	平年並みか少ない見込み

令和８年 11 月５日　高松地方気象台　発表

麦 ≪圃場の準備≫

○土づくり

pH 矯正

適正 pH は 6.2～6.9 です。石灰質資材を施用して調整しましょう。

（苦土石灰の場合：150kg/10a 程度）

※稲麦二毛作の場合…

pH 矯正と合わせて来季の稲作に向けてケイ酸の補給を行って下さい。酸度の高い圃場では酸度矯正力の高いケイカル（200kg/10a）の施用を行いましょう。

○湿害対策

播種期の多雨は湿害を引き起こし、出芽不良や減収を招くため、湿害対策は万全に行いましょう。前作が終わったら、本暗渠・弾丸暗渠・心土破砕や額縁暗渠を設け、播種までにほ場の乾燥に努めましょう。



写真１　額縁明渠の施工

≪播種と施肥≫

○種子の準備

麦は自然交雑が起こりやすく、自家採種を続けると品種特性の劣化、混種や変異が起こるため、２～３年に１回は種子更新を行いましょう。
また、種子伝染性病害（裸黒穂病、斑葉病など）を防除するため、種子消毒を必ず行いましょう。

○播種適期

ハルヒメボシの播種適期は 11 月 15～25 日です。11 月上旬以前の極端な早播きは、過繁茂となり黄化し、減収・小粒化しやすくなるため避けましょう。
また、12 月以後の晩播きは出芽数と茎数が不足し、穂数の減少や遅れ穂の増加により減収や品質低下が起こりやすいため、播種が適期から遅れる場合は、播種量を増量しましょう。
小麦の播種適期は、収穫期の雨による大幅な品質低下を防ぐため、はだか麦よりやや早播きが望ましく、チクゴイズミでは 11 月 10 日～20 日です。
しかし、早播きと暖冬が重なると早期出穂し、霜害を受け不稔になる恐れがありますので、極端な早播きは避けましょう。

○出芽数と播種量（目安）

	ドリル播（条間 20ｃｍ）
出芽数（１㎡当たり）	１５０本
播種量（１０a 当たり）	８ｋｇ

※播種期が早い場合は 6kg/10a を目安にしましょう。
播種時期が遅れると、出芽率が低下するため 11/25 以降、５日遅れるごとに播種量を１割増量しましょう。

○播種深度

・播種深度が深いと出芽率が低下し、
生育が極端に悪くなります。
・未乾燥の圃場では機械が沈み込み、播種深度が深くなりやすいので、事前にほ場の乾燥に努めるとともに播種前には入念に機械の深度調整を行ってください。

	ドリル播
耕起深度	５～１０ｃｍ
播種深度	１～２ｃｍ

○播種時の排水対策

播種後、深さ 15 ㎝の排水溝を２～３m間隔で設置し、停滞水が確実にほ場外へ排出されるよう排水溝と導水路を接続しておきましょう。（写真２）



写真２　排水溝と導水路の接続

溝の深さが 15～20 ㎝の畝立て同時播種とすることで、苗立ちが良好となり、播種時の湿害を軽減できます。（写真３）





写真３　畝立て同時播種
（左：畝立て版を両側に設置、右：畝立て版を片側に設置）

○施肥量

	ドリル播
窒素成分（10a 当たり）	５～７ｋｇ
リン酸（　〃　）	６～８ｋｇ
カリ（　〃　）	８～１０ｋｇ

※過剰施肥は過繁茂や倒伏、品質低下につながるので、適正量を心がけましょう。

・はだか麦の遅撒きでは、肥効調節型肥料を用いた全量基肥施肥は避けましょう。
また、はだか麦で黄枯れや枯熟れの出やすい圃場では、追肥重点施肥にすると減収を回避できる場合があります。

※ 追肥重点型施肥：基肥量を減らして過繁茂を抑制し、葉色に応じて中間追肥を分施する施肥方法（表１を参照）

表１　はだか麦の追肥重点型施肥の施肥体系（窒素成分kg/10a）

施肥法	基肥	中間追肥		穂肥	計
		12／下	１／下	２／下	
慣行	7	0	2	3	１２
追肥重点	4	3	3	3	１３

大豆≪収穫≫

ほ場内の雑草や青立ち株は、汚粒の発生原因となるので、収穫前に除去しましょう。

収穫適期については、**大豆の茎水分が高いと汚粒の発生が増えるため、茎水分が 50%以下になってから収穫を始めましょう。**

（茎が黒ずみ、手で容易に折れる状態（写真４））

また、子実水分は 18%程度が収穫適期です。これよりも高いと潰れ粒、低いと裂傷や割れ豆などの損傷粒が生じやすくなる。

収穫時刻は、汚粒の発生を少なくするため、茎や莢が乾燥する午前 10 時以降を目安としてください。

収穫後は、子実水分 15%に仕上げ乾燥し、選粒機を用いて莢雑物や被害粒を取り除きましょう。



写真４　大豆の収穫期

（農林水産研究所）

≪タマネギ≫

○圃場準備

・pH 矯正

好適ｐＨは 6.4～6.8 で酸性土壌に弱い作物です。また、石灰（カルシウム）が不足すると株が軟弱になり湿害を助長するので、完熟堆肥とともに石灰資材を施用して酸度矯正を行いましょう。

・排水対策

結球期に湿害、乾燥の影響を受けると肥大不良を引き起こします。畝立てなどを行って排水性の良い圃場づくりをおこなって下さい。

○定植時期、定植深度

定植時期		定植深度
早生品種	中生、晩生品種	
11 月中旬～下旬	11 月下旬	2.5～3cm

※深植えをすると欠株し、結球不良となるため適正深度で行いましょう。

○施肥量

（10ａ当たり）

作　　型	目標数量 トン	基　　肥 （N・P・K）	追　　肥 （N・P・K　）	備　　考
秋まき（青切）	5	１０・２０・１０	１０・０・１０	
秋まき（貯蔵）	6	１２・２０・１２	１２・０・１２	
秋まき（貯蔵）	6	２１・２１・２１	生育をみて Ｎ・３程度	緩効性肥料 （70 日タイプ）

≪果樹≫

○秋肥の役割

① 着果で消耗した栄養分の補給　②樹勢回復、耐寒性の向上　③翌春の開花結実促進

※　地温が下がり始めると根が肥料を吸収しづらくなるため、11 月中に施用しましょう。

※　施用の多少の遅れは翌春に利用されます。

○かんきつの秋肥・晩秋肥施用基準

（愛媛県施肥基準）

品種名	目標収量（t/10a）	施肥時期	施肥成分量（kg/10a）		
			チッ素	リン酸	カリ
極早生温州	4.0	11 月上旬	5	3	3
早生温州（マルチ）	4.0	収穫直後	11	7	8
普通温州（マルチ含む）・はれひめ	4.0	11 月上旬	10	6	7
早生伊予柑	4.0	11 月上旬	7	5	5
不知火	3.0	11 月上旬	8	6	6
ポンカン	3.0	11 月上旬	7	5	6
清美・せとか（甘平）	3.5	11 月上旬	8	6	7
愛媛果試第２８号	4.0	11 月上旬	8	5	6

施用適期を逃したと思っても…？？

秋肥は施用時期が遅くなると、地上部器官への移行は遅れますが、**地下部器官へは吸収され、翌春の新梢・花蕾の形成に寄与**します。

適期を逃した場合でも即効性の化成肥料等を施用しましょう！！

○葉面散布

樹勢低下が起こっている樹には葉面散布でしっかり御礼を行って下さい。

※あくまで応急措置です！しっかりと土づくりを行って下さい。　（県農産園芸課）







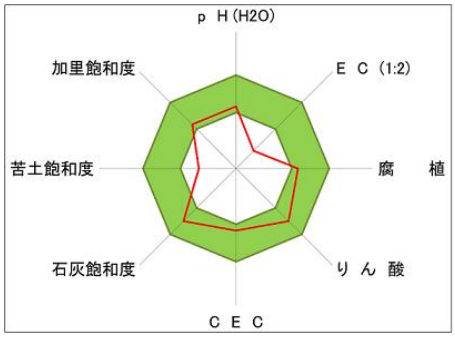




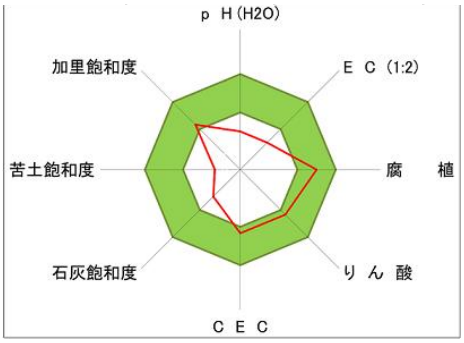
2. 2026年　柑橘定点の土壌分析結果について

1．温州みかん、伊予柑別の分析結果と平均値によるレーダーチャート（2026年）

	pH (H2O)	EC(1:2) (mS/cm)	腐植 (%)	CEC (me/100g)	石灰飽和度 (%)	苦土飽和度 (%)	加里飽和度 (%)	りん酸 (mg/100g)
温州みかん平均	5.5	0.2	3.2	14	49	11	5	98
伊予柑平均	5.0	0.2	3.9	14	35	9	5	84
基準値	5.5～6.3	0.3～0.6	3.0以上	15以上	40～60	15～25	4～15	30～200



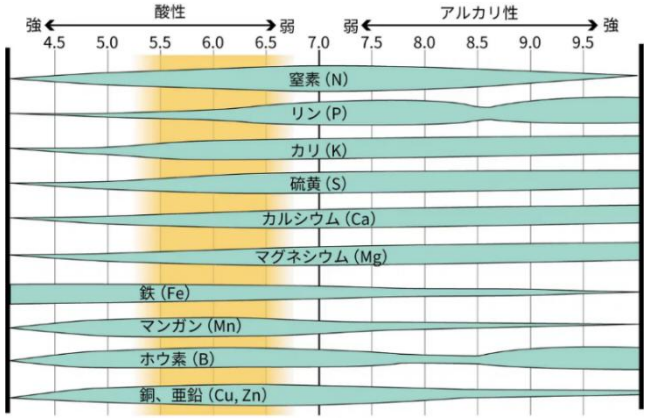
【温州ミカン平均】



【伊予柑平均】

温州みかんでは、ｐＨが適正値下限で、苦土飽和度が低い。伊予柑では、ｐＨの分析値は5.0とまだまだり低く、石灰飽和度、苦土飽和度も低い。

3．pHの違いによる肥料成分の溶解性



ｐH5以下の強酸性下では、NPKの溶解性が低くなっている。この酸度ではこれらの肥料が効きにくい状態になるため、施肥しても柑橘樹体が利用できないことにつながる。

また、強酸性下において土壌から溶出するアルミニウム・マンガン等の毒性により根の伸張障害を発生させる可能性がある。

石灰資材による土づくりを徹底しましょう！



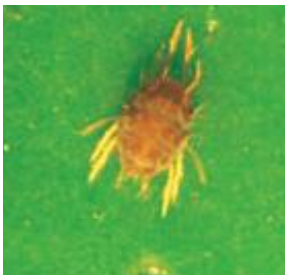
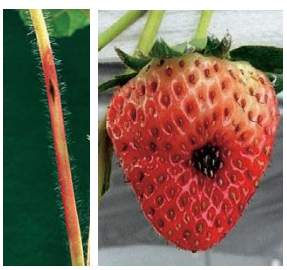
苦土石灰



サンライム

3. 病害虫管理

愛媛県病害虫防除所　(写真：千葉、香川、茨城県ＨＰより)
(写真：香川県、茨城県、千葉県 HP、愛媛県農作物病害虫雑草図鑑より)

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
貯蔵病害（緑カビ病、青カビ病）	かんきつ	やや多	・収穫作業は降雨直後を避け、傷をつけないよう丁寧に扱う。 ・収穫１～２週間前までの薬剤散布を徹底する。散布後 100mm の降雨があれば追加散布する。	
ミカンハダニ	かんきつ	並	・気温が低くなると薬剤の防除効果が上がりにくいので、発生園では早めに防除する。 ・果実袋やサンテなどはハダニ類の発生の有無を確認し防除後に実施する。	
黄化えそ病	冬春きゅうり	やや多～多	・発病株はすぐに処分する。 ・媒介虫の卵・蛹には薬剤の効果が劣るので、発生圃場では発生に応じて２～３回防除を行う。 ・除草、ネットなどは媒介虫の防除に効果的。	
褐斑病	冬春きゅうり	並	・換気を行い、多湿を防ぐ。 ・草勢低下、窒素質肥料の過多は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。 ・発病初期の防除に重点を置き、葉裏まで丁寧に散布する。	
うどんこ病	冬春きゅうり	並	・病勢が進展した発病葉は除去し、適切に処分する。 ・窒素過多を避ける。 ・発病初期の防除に重点を置き、薬液が葉裏にかかるよう散布する。	
炭疽病	冬春いちご	やや少～並	・苗床で発病が見られていた場合、定植後に外観上健全な株でも保菌している可能性があるので注意する。 ・萎凋・枯死株は直ちに除去し、補植用苗を定植する。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
うどんこ病	冬春 いちご	並～やや多	・気温の低下とともに新しい展開葉から発病し始めるため、葉裏をよく観察し発病初期の防除に重点を置く。特に育苗期に多発した圃場では注意する。 ・萎凋・枯死株は直ちに除去し、古葉もできるだけ除去する。	
コナジラミ類	冬春 トマト 冬春 きゅうり	ﾀﾊﾞｺｺﾅｼﾞﾗﾐ ：やや多 ｵﾝｼｯｺﾅｼﾞﾗﾐ ：やや多 ﾀﾊﾞｺｺﾅｼﾞﾗﾐ ：多 ｵﾝｼｯｺﾅｼﾞﾗﾐ ：やや多	・薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布し、ローテーション防除を行う。 ・トマト黄化葉巻病発生株は発見次第除去する。 ・ハウス内侵入を防ぐため、ハウス開口部に防虫ネッ（0.4mm以下が望ましい）を被覆する。	
ハダニ類	冬春 いちご	並	・薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。 ・薬剤の選択は、ミツバチや天敵カブリダニ類等への影響を考慮する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避け、気門封鎖剤を含め、系統の異なる薬剤によるローテーション使用を心掛ける。	
アザミウマ類	冬春 いちご	やや少	・発生が認められたら早めに防除する。 ・圃場内外の除草を徹底する。 ・ハウスの開口部に防虫ネットを被覆し、成虫の侵入抑制を図る。	
ハスモンヨトウ	冬春 いちご 冬春野菜 全般	並	・早期発見に努め、発生が見られたら早めに防除する。 ・天敵類を使用している施設では、影響を考慮し薬剤選択をする。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
アブラムシ類	冬春 トマト 冬春 きゅうり いちご	並 やや多 並～やや多	・早期発見に努め、発生が見られたら早めに防除する。 ・天敵類を使用している施設では、影響を考慮し薬剤選択をする。	
オオタバコガ シロイチモジヨトウ	冬春野菜全般	やや少 やや多	・早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。	

各 JA の防除指針通り

病害虫の防除を徹底して下さい！！

4.　貯蔵病害対策

かんきつ農家の皆さま

腐敗防止対策を徹底してください！！

『美味しい！』と評判の温州ミカンを買って、箱を開けてみたら・・・

カビが・・・。なんで！？

この産地のミカンは買いたくない・・・。



☆ 収穫・貯蔵管理☆

○収穫前に腐敗防止剤を散布する
○果実に傷をつけない（丁寧に扱う）
○降雨直後や朝露の残っているときに収穫しない
○予措、貯蔵庫内の温度・湿度管理及び貯蔵庫での発病果実の除去

□ 主な腐敗防止剤一覧

薬剤名	希釈倍数	収穫前使用時期/使用回数	
		かんきつ（みかんを除く）	みかん
ベンレート水和剤	4,000 倍	前日 / 2 回以内	前日 / 4 回以内
トップジン M 水和剤※	2,000 倍	前日 / 5 回以内	前日 / 5 回以内
ベルクートフロアブル	2,000 倍	前日 / 2 回以内	前日 / 3 回以内

※トップジン M 水和剤は、「かんきつ（みかんを除く）」の施設栽培には使用しないでください。

貯蔵病害を防ぎ、産地イメージを守りましょう！

5. その他

（1） 秋冬期のジャンボタニシ対策

地域ぐるみで取り組みましょう

ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために

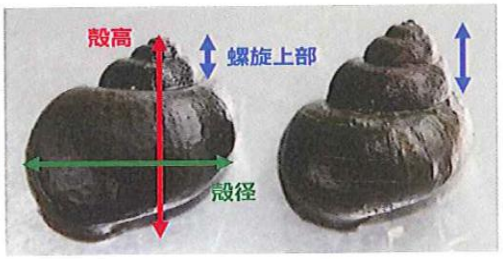
【秋冬編】

暖冬の影響で全国でのジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が増えています。冬期の耕うんや薬剤の適切な散布など防除対策を組み合わせ、移植水稲での被害を防ぎましょう。地域ぐるみで取り組めば、さらに効果的です。





ジャンボタニシ
（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ　マルタニシ



ヒメタニシ

・成貝の殻高は２～７cm程度

・本貝は、他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです。また、長い触角とピンク色の卵塊が特徴です。



用水路（水口）の卵塊



食害を受けた水田

・深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には、欠株となります。

・田植え後、約３週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなります。

・本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないでください。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗いましょう。

●防除対策の詳細は裏面を参照ください。

農林水産省

【秋冬編】ジャンボタニシの防除対策（移植水稲）

秋冬期には、以下の防除対策を実施し、越冬個体数を減らすことが重要です。

○ 秋期の石灰窒素（発生量が多い場合に実施）



殺貝効果のある石灰窒素を散布。

いつ・どのように

・水温が17℃以上の時期に、３～４日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。

留意事項

・魚毒性が高いため、田面水は水路に流さず自然落水させる。
・窒素成分を多く含むため、次作の施肥量を減らす調整が必要。

○ 冬期の耕うん（発生している場合に必ず実施）





物理的な破砕を行うとともに貝を厳寒期の寒風にさらす。

いつ・どのように

・土壌が乾燥して固い厳寒期（１～２月）に、トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速く(ロータリーの回転を速く)し、土壌を細かく砕くように耕うん。

留意事項

・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄。

○ 冬期の水路の泥上げ（発生量が多い場合に実施）



越冬場所をなくし越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。

いつ・どのように

・殺貝効果が高まる厳寒期（１～２月）に実施。

留意事項

・掘り上げた泥は、未発生ほ場に持ち込まない。

○ 春夏期の防除対策として、
田植え前まで：取水口・排水口への網の設置、春期の石灰窒素
田植え時から：浅水管理、薬剤散布
などを組み合わせて実施しましょう。



（２）　野菜の低日照における生育促進のための資材紹介

○《施用資材の組み合わせの例》

高機能アミノ酸資材の施用で炭素の供給を行い、正リン酸（H_3PO_4）と亜リン酸（H_3PO_3）の両方を含む液肥施用で野菜の株を傷めず、水溶性石灰を含む土づくり資材で、りん酸、カルシウム等の吸収を促し、発根の促進と低日照に負けないしっかりとした生育を目指します。

《具体的資材の例》

ソイルサプリエキス



100%有機質由来で、天候不順下でも生育向上や品質向上が期待できる『アミノ酸』と根から出る物質(核酸)と同様に土壌のミネラルやリン酸の吸収を高める『有機酸』の濃縮液です。

各種有効成分の働きにより、土壌中の有用微生物の増殖を促進し、地力向上が期待できます。

トミーネクサス



りん酸分のうち、植物に吸収されやすい亜リン酸と正リン酸を50%ずつ含有しているため株を傷めることがありません。

肥料の３要素の他、有効な有機成分（核酸・アミノ酸・糖類・フミン酸・リグニンなどを含んでおり中性で、塩素を含まないのでハウスの追肥用肥料として適します。花芽の充実、着果の促進が期待できます。

ストロングバランス



オールインワンの土づくり肥料。ｐＨ矯正に必要な『アルカリ分（35%）』。作物に吸収されやすく根の発育を促す『水溶性カルシウム（12.1%）』を含みます。その他、苦土、マンガン、ほう素、硫黄、鉄を含むため、土壌成分のバランスを整えます。

（３）　野菜の土づくり、作物栄養のためのボカシ肥料のご紹介

○《具体的資材の例》

菌根甘（ 6-5-5 と 9-6-5 ）





動植物原料をぼかすことによりタンパク質からのアミノ酸が増えていますので、よりすみやかに穏やかに効きます。

ぼかしていない有機よりも、低温、低日照、高温条件に、より強い傾向があります。

《菌根甘の有機原料の内容》

混合有機質肥料

魚と米ぬかを７：３の割合で混合しぼかした原料。米糠に、ぼかし発酵のスターターとしての『こうじ菌』が発生し分解しにくい魚骨までキレイにボカしています。



米ぬか油かす

好気性発酵、嫌気性発酵ともに得意な、まさに発酵のための原料。ｐＨ 約５．０の弱酸性で『こうじ菌』にも『乳酸菌』にも好まれます。酸素がある条件では『こうじ菌』が一気に増え、酸素がない条件下では『乳酸菌』が一気に増えます。



蒸 製 骨 粉

りん酸とカルシウムが豊富で、分解が困難な有機原料として有名ですが、菌根甘には**非常に細かく粉砕された骨粉を使用**しており、効果が発揮されやすくなっています。

【備考：比較対照】

骨粉の粉砕されてない状態





魚 荒 粕

アミノ酸の豊富な原料です（バリン、イソロイシン、ロイシン、メチオニン、リジン、フェニルアラニン、トリプトファン、スレオニン、ヒスチジンなど）



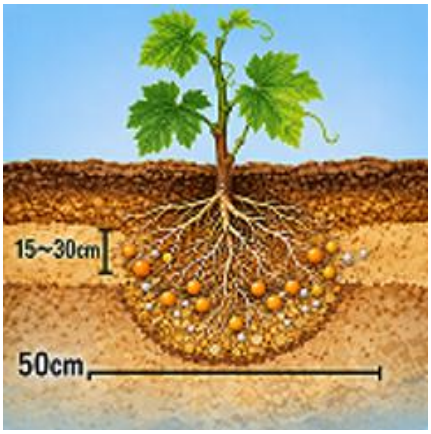
なたね油かす

発酵のしやすさは米ぬかに次いで早く、弱アルカリ性で土着微生物により発酵後は酸性となります。土中で穏やかに分解し、穏やかな肥効で植物の発育を促します。また微生物の繁殖を盛んにし、肥料効果の高い土質へと改善します。



（4） 落葉果樹・新改植時の土づくりについて

定植してからの土づくりは
なかなかできません！
改植時に思い切った土づくりを!！



1. 定植時の土壌づくり

★ 完熟堆肥　　3t/10a

★ 苦土石灰 200kg/10a　※ pH、作土深により調整

『完熟堆肥』の投入により、土の物理性改善を実施し、団粒構造を促進させましょう！
『苦土石灰』等の石灰質資材の投入により、土壌の酸度矯正を実施しましょう！

2. 定植準備

植え穴をできるだけ広く（60～70cm）、深く（50cm）掘り、植え穴の中に完熟堆肥や物理性を改善する資材を施用します。この時の深さが浅いと根が張らないため樹勢が悪いままとなり、何年も管理が難しくなります。苗の一生が決まる重要な作業です。

作物別の土の深さは下記の根域の表を目安として下さい。

主要果樹で求められる根域と根の特性、土壌診断基準（粗孔隙率、透水係数）

樹種	主要根群域※1 深さ（cm以上）	根域※2 （cm以上）	地下水位 （cm以下）	耐湿性	耐干性	粗孔隙率 （%＜）	透水係数 （cm/秒）
モモ	30	60	100	弱	中～やや強	15	2×10^{-4}
クリ	40	60	100	弱	強	15	10^{-4}
ナシ	40	70	100	中くらい	弱	10	10^{-4}
リンゴ	30	60	100	中くらい	やや弱	15	10^{-3}
ブドウ	30	50	80	強	やや弱	12	10^{-4}
カキ	40	60	100	比較的強	弱	15	10^{-4}
ミカン	30	60	100	弱	強	15	10^{-4}

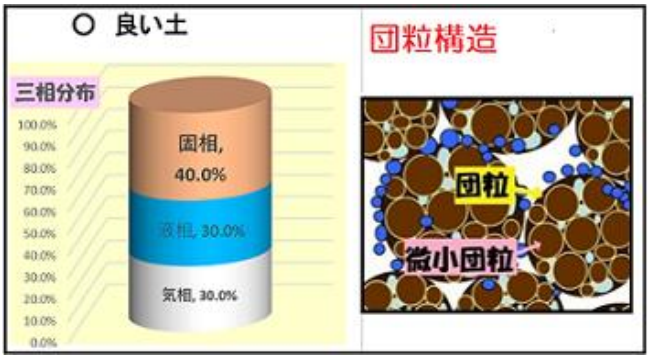
※1　主要根群域とは、細根が７～８割以上分布する範囲
※2　根域とは、根が９割以上分布する範囲
粗孔隙率と透水係数は褐色森林土、低地土、赤黄色土での基準値

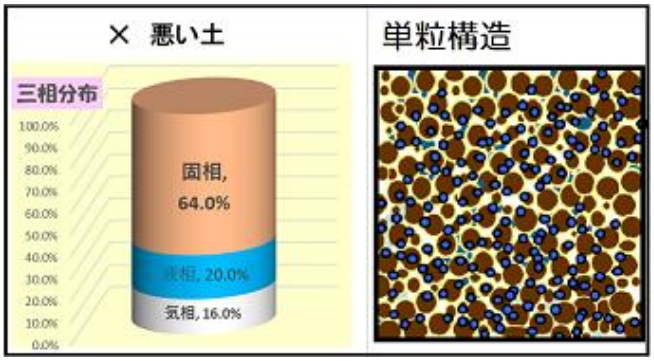
『農林水産省果樹試験場編（1985）果樹園土壌の現状と診断基準』より

3. 良い土の条件

土壌のうち、土の部分を固相、水の部分を液相、空気の部分を気相と言います。

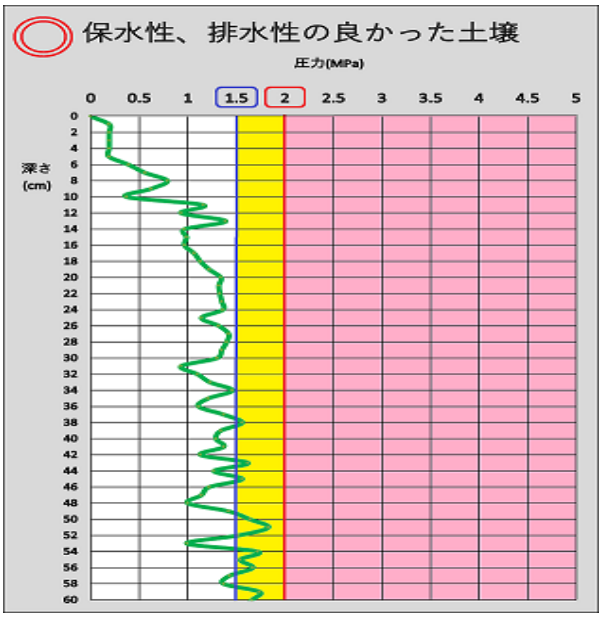
良い土の３相の割合は、固相：液相：気相＝40：30：30です。固相の割合が多いと根が張りにくく、気相が少なすぎると根が酸欠になります。

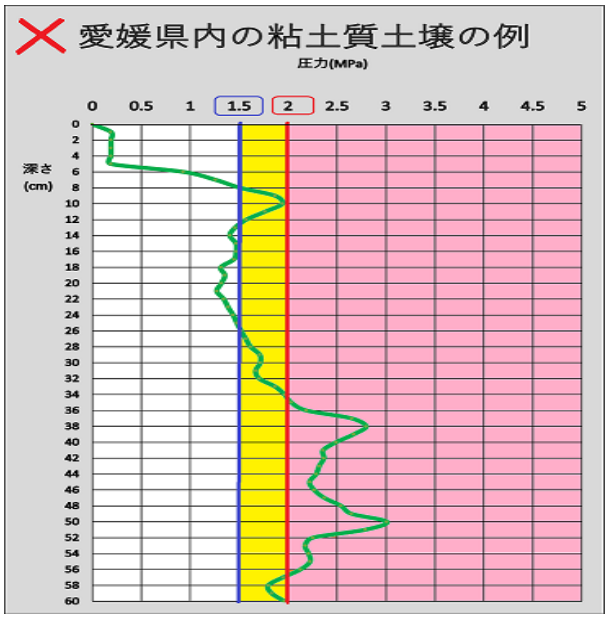




また、粘土質や砂質で土が硬すぎると根が張れません。以下のグラフは県内のブドウ土壌の硬さを 1cm ごとに測定したものですが、黄色で示している 1.5～2.0MPa（メガパスカル）未満では**極めて根が張りにくく**なり、ピンク色で示した 2.0MPa 以上となると**全く根が張れない**ことを示しています。

左は県内でも根張りが良好だったブドウ土壌の例で約 50cm 下まで根が張れる状態ですが、右は県内中山間地の粘土質土壌で、まず 10cm くらいに根が張りにくい硬さになっており、作土の深さも 30cm 未満の生育不良の例です。





4. 改良資材のご紹介

根を張りやすくするために、土質に合わせて、資材を選びましょう。

バーク堆肥（樹皮堆肥）
【土乃素】
団粒構造を作り、通気性・排水性を改善。



ヤシ殻
【ベラボン】
水はけと保水のバランスを改良。物理性を維持。
地下水位の高い圃場にも使用例あり



完熟堆肥
（牛糞・鶏糞、豚糞）
微生物を増やし、根圏環境を改善（主に鶏糞）。
物理性を改善（主に牛糞）。



微生物資材（バチルス菌・トリコデルマ菌）
【ハイフミン・ハイブリッド G】土壌病害（フザリウム・リゾクトニア等）を抑制。初期生育を安定。



腐植資材
【リブミン（粒）】
効果の長い腐植資材
土壌の団粒化し、生理障害の予防に。腐植成分は下層に浸透性。



パーライト・軽石
【ネニサンソ】
排水性改善が目的。
粘土質で水が抜けない園、湿害が出やすい園に有効。

